

箱根町総合計画策定のためのアンケート 調査報告書

令和8年1月30日

箱根町企画課

調査の目的

本調査は、箱根町第7次総合計画および総合戦略策定のための基礎資料とし、町民のニーズを踏まえた総合計画・総合戦略立案を進めていくことを目的として実施しました。

調査の概要

調査対象は、箱根町に在住の18歳以上の男女の中から無作為に抽出した1,500名を対象に配布・回収を行い、令和7年10月1日～10月30日までを調査期間として実施しました。配布数1,500票に対し、回収数は386票、回収率は25.7%でした。

■配布・回収結果

調査対象	箱根町に在住の18歳以上の男女
抽出方法	無作為抽出
調査方法	郵送による配布・回収及びWebによる回答
調査時期	令和7年10月
配布数	1,500票
回収数	386票
回収率	25.7%

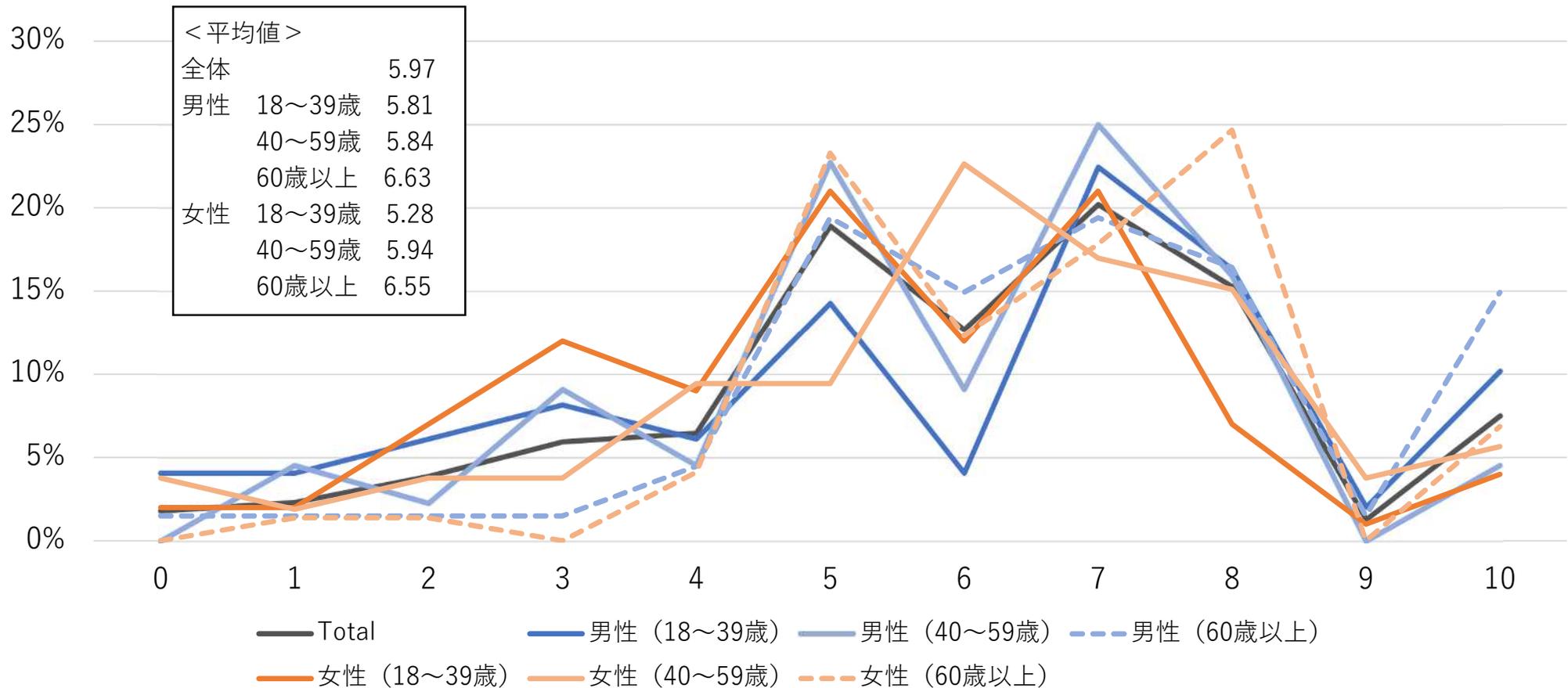
■年代別回収数

全 体	386
18～29歳	61
30～39歳	88
40～49歳	44
50～59歳	53
60～69歳	45
70歳以上	95

問1 箱根町で暮らすことについて、どの程度幸せを感じていますか。

- 全体の幸福度では、10段階中「7」が20.2%と最も多く、次いで「5」が18.9%と続く。平均値は5.97。
- 男女共に年齢が上がるにつれて幸福度も高くなる傾向にある。
- 18～39歳の幸福度は他の属性と比較して低い傾向にあり、平均値は5.28となっている。

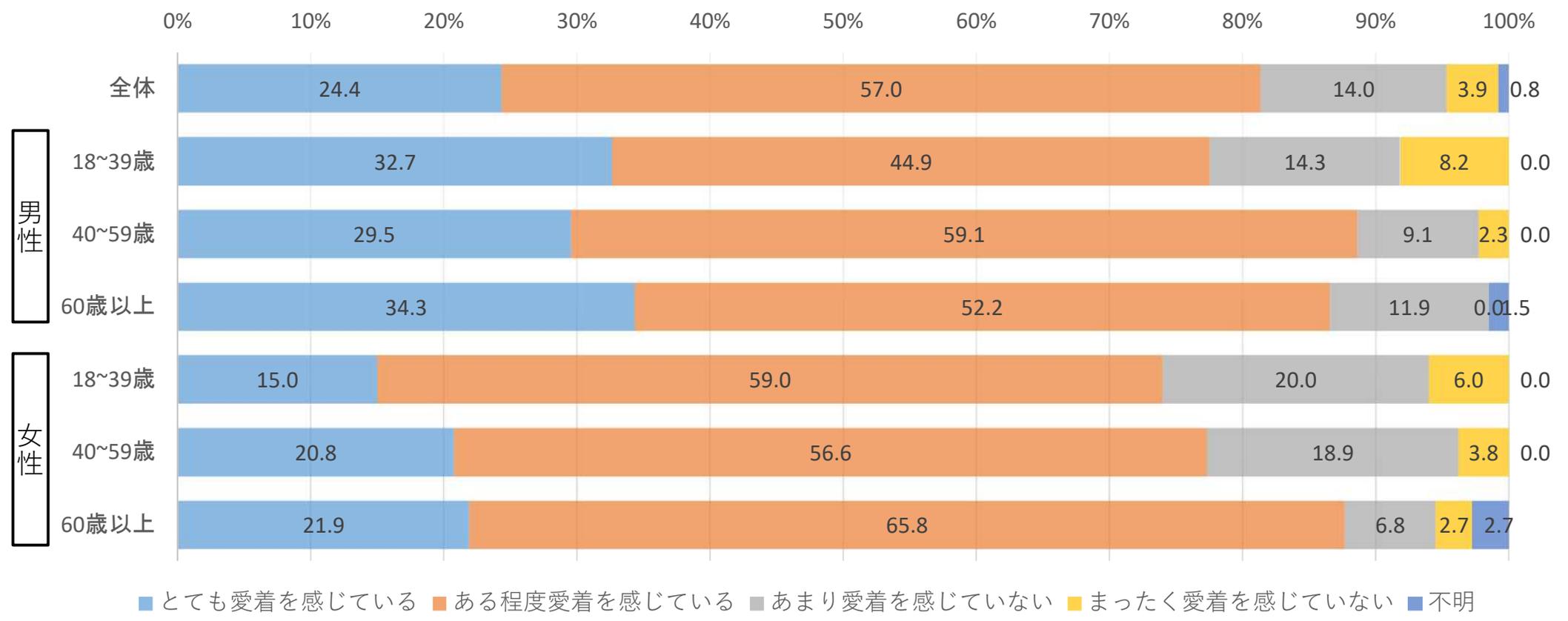
箱根町での暮らしにおける幸福度



問2 箱根町（お住まいの地域）に愛着を感じていますか。

- 箱根町に対する愛着度は全体的に高く、81.4%が「とても」または「ある程度」愛着を感じている。
- 年齢が上がるにつれて、男女共に愛着度が高くなる傾向が見られる。
- 18～39歳の若年層は男女共に愛着度が低く、「まったく愛着を感じていない」の割合も高くなっている。

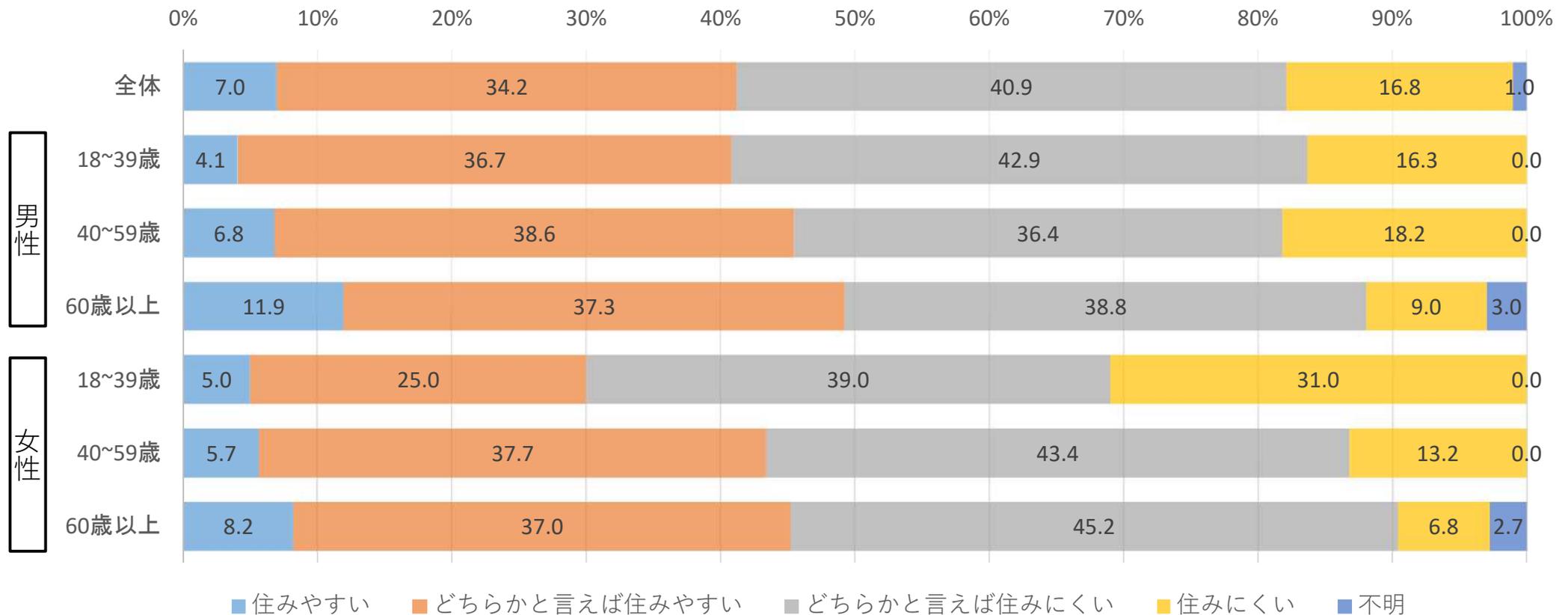
箱根町への愛着



問3 箱根町は住みやすい町ですか。

- 全体で57.8%が住みにくいと感じており、住みやすいと感じている人の割合41.2%を上回っている。
- 18～39歳女性は、他の層と比べて特に住みにくさを感じており、70.0%が住みにくいと回答している。

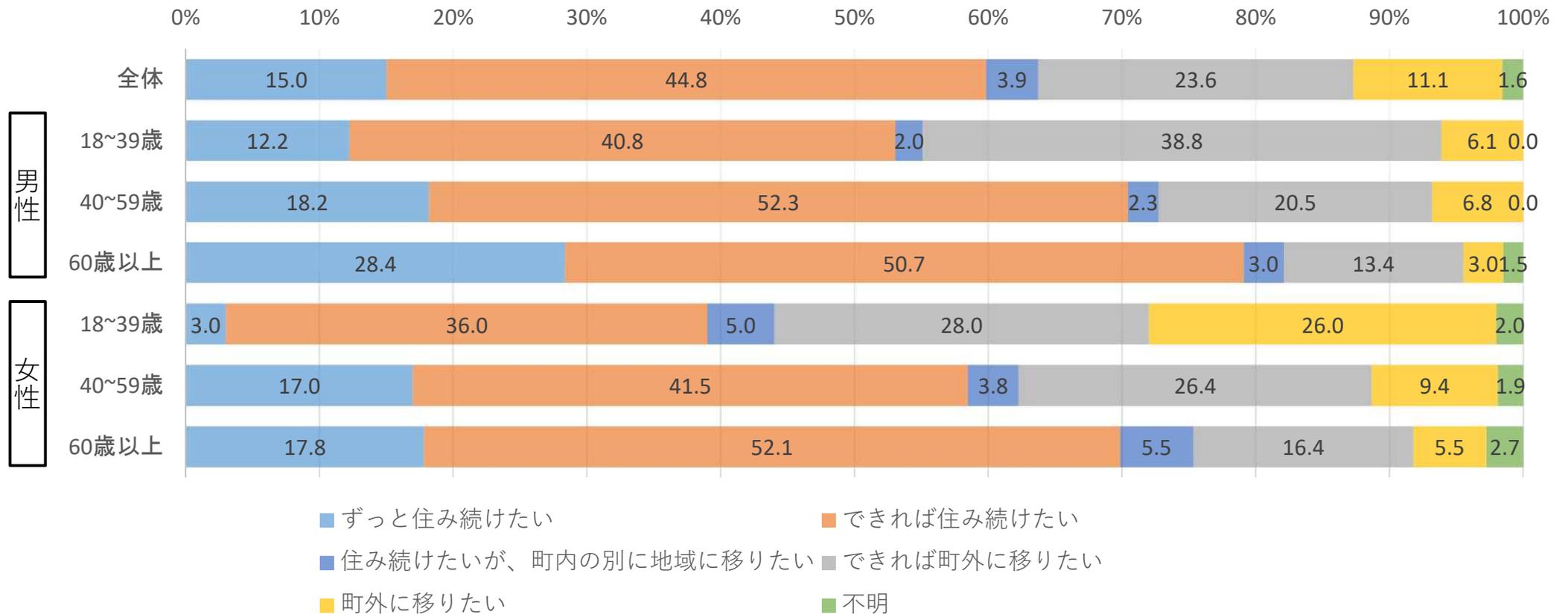
箱根町の住みやすさ



問4 箱根町に今後も住み続けたいですか。

- 今後の居住意向について、「できれば住み続けたい」の回答が44.8%と最も多くなっており、前回調査時（H27年度）との傾向の差は見られなかった。
- 18～39歳女性は54.0%が町外に移りたいと考えており、他の属性と比べて特に多い。

箱根町における定住意向



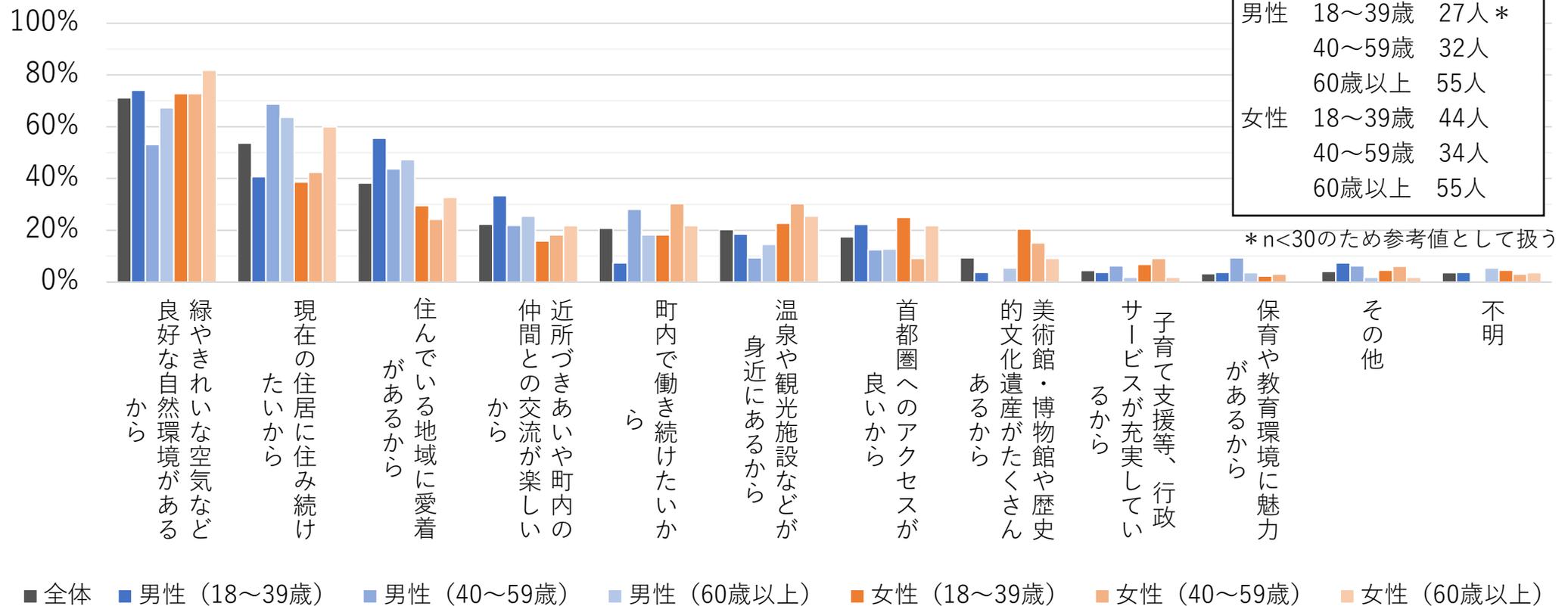
箱根町に住み続けたい理由

問5 住み続けたい理由はなんですか。（あてはまる番号を3つまで）

【問4で「住み続けたい」「できれば住み続けたい」「住み続けたいが、町内の別の地域に移りたい」と答えた方】

- 40～59歳男性以外の属性では「自然環境」が最も高くなっている。
- 高齢層ほど、「現在の住居への愛着」が強い傾向にある。
- 男性は、女性に比べて「地域への愛着」が住み続けたい理由になっている傾向にある。
- 「子育て支援等の行政サービス」「保育・教育環境」は全体的に低く、住み続ける理由として重視されていない。

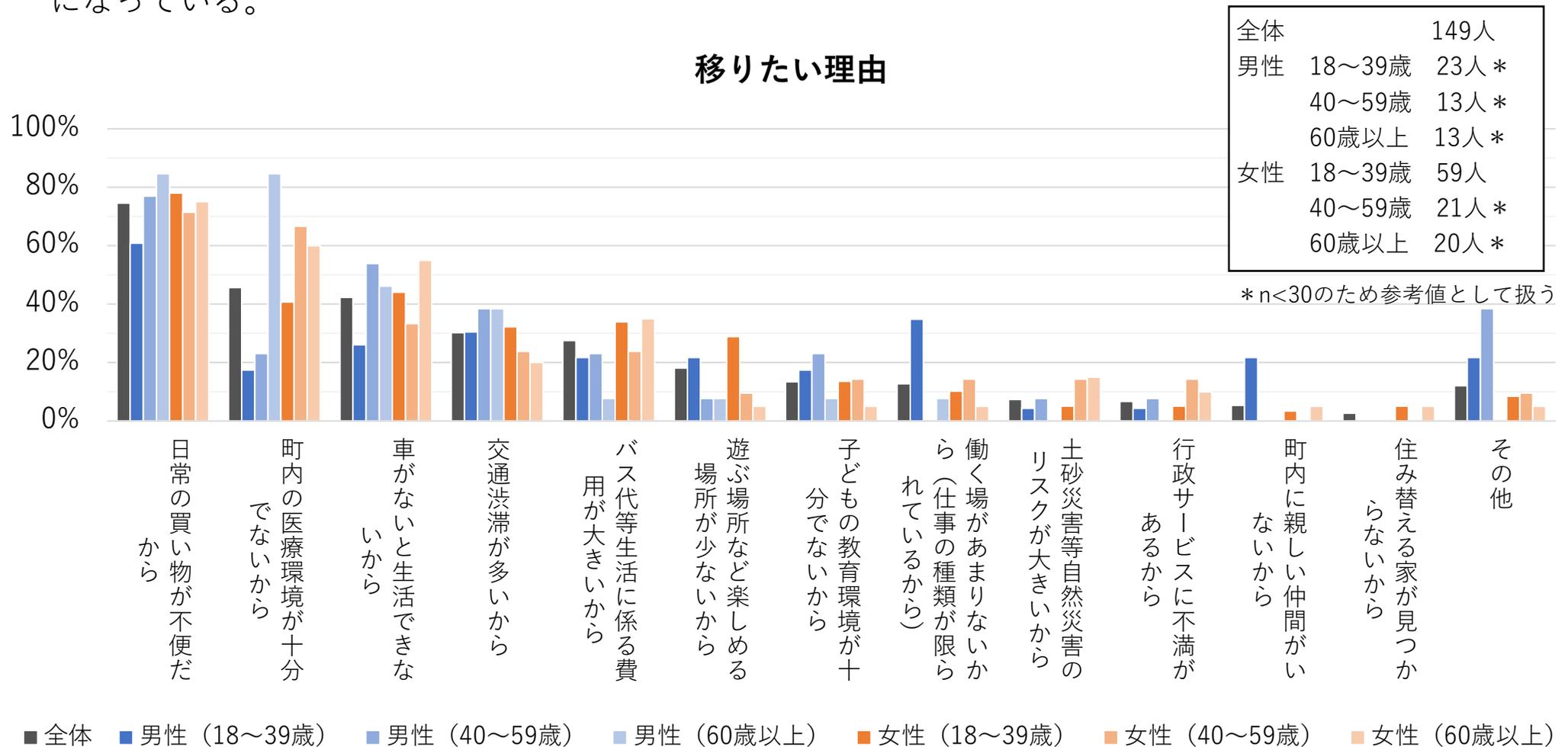
箱根町に住み続けたい理由



問6 移りたい理由はなんですか。（あてはまる番号を3つまで）

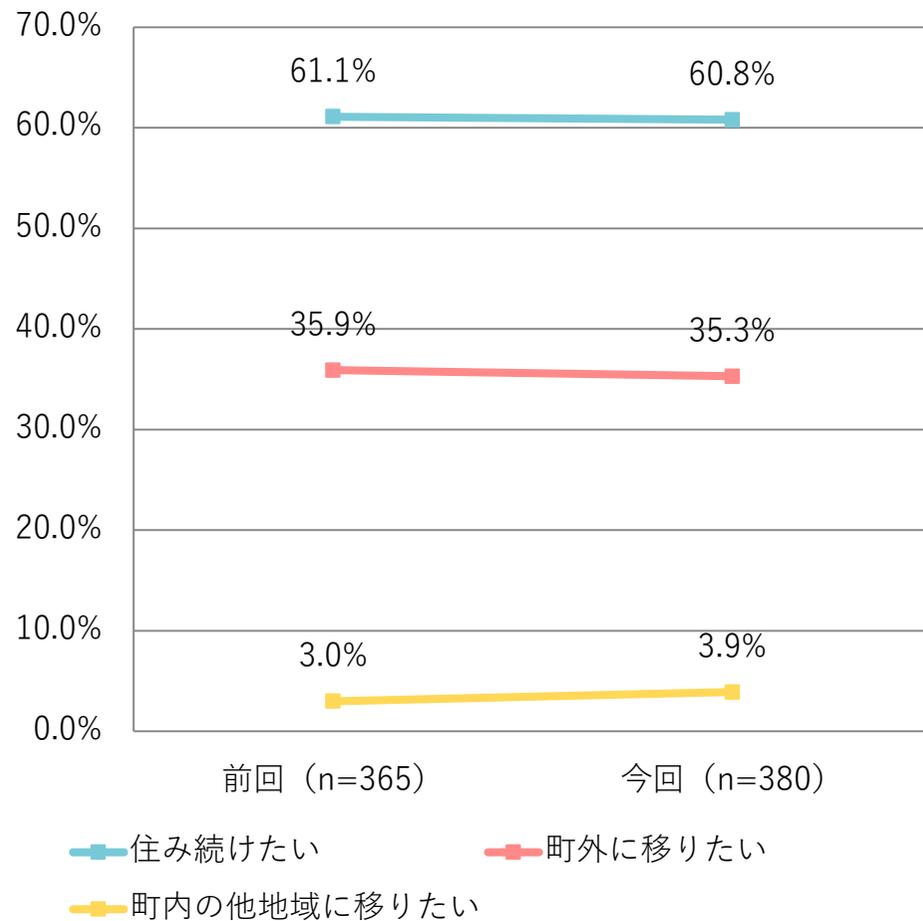
【問4で「できれば町外に移りたい」「町外に移りたい」「住み続けたいが、町内の別の地域に移りたい」と答えた方】

- 全体として「日常の買い物の不便さ」が最も高い結果となった。
- 全体で2番目に回答が多い「医療環境」については、60歳以上男性及び40歳以上女性において回答が多い。
- 18～59歳男性及び18歳～39歳女性は、「医療環境」よりも「車がないと生活できない」が移りたい理由になっている。

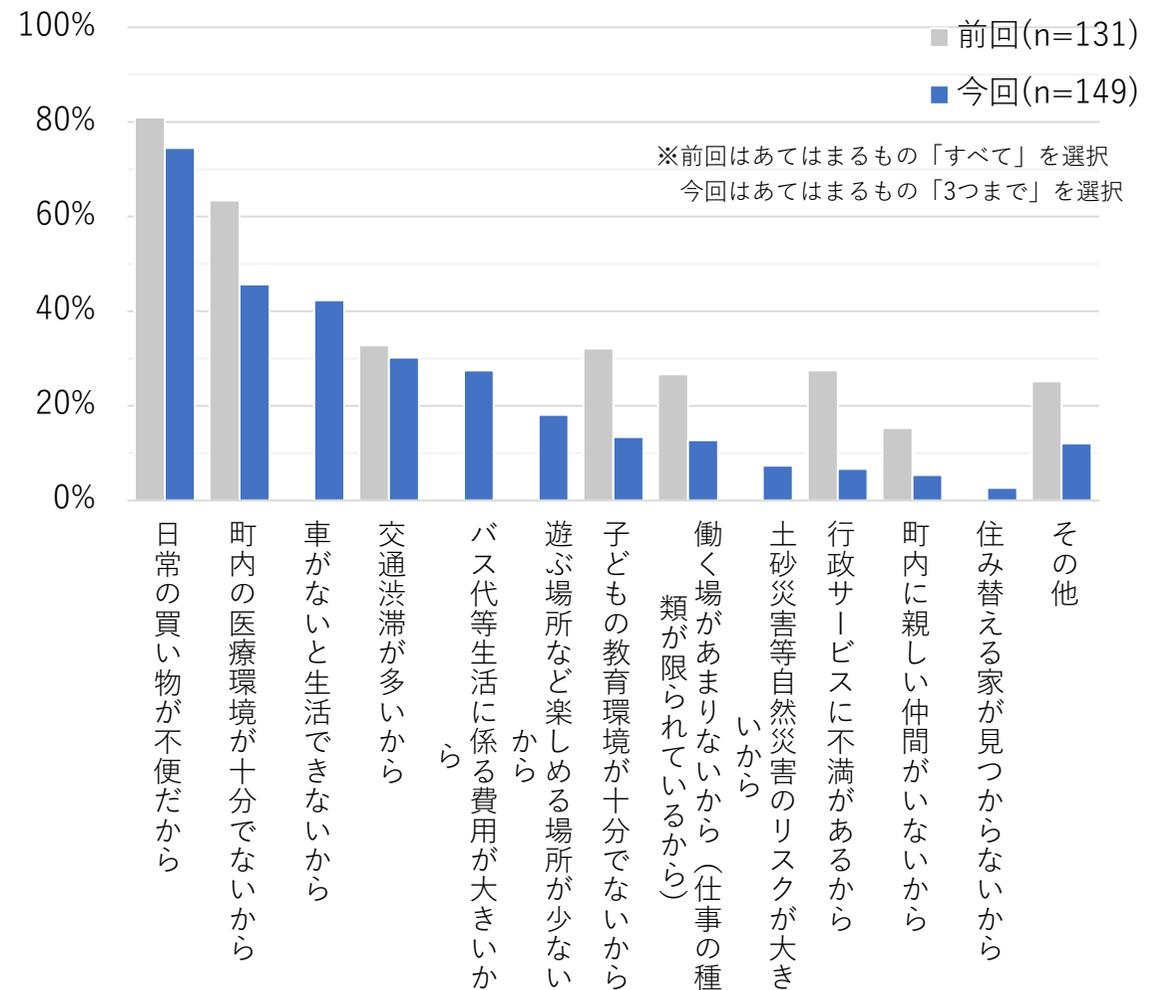


- 第6次総合計画策定時アンケート調査（平成27年1月実施）における定住意向の結果と比較すると、「住み続けたい」が0.3pt減少、「町外に移りたい」が0.6pt減少、「町内の他地域に移りたい」が0.9pt上昇で大きな変化は見られなかった。
- 移りたい理由は、「買い物の不便さ」「医療環境」が変わらず上位となっている。

箱根町における定住意向の推移



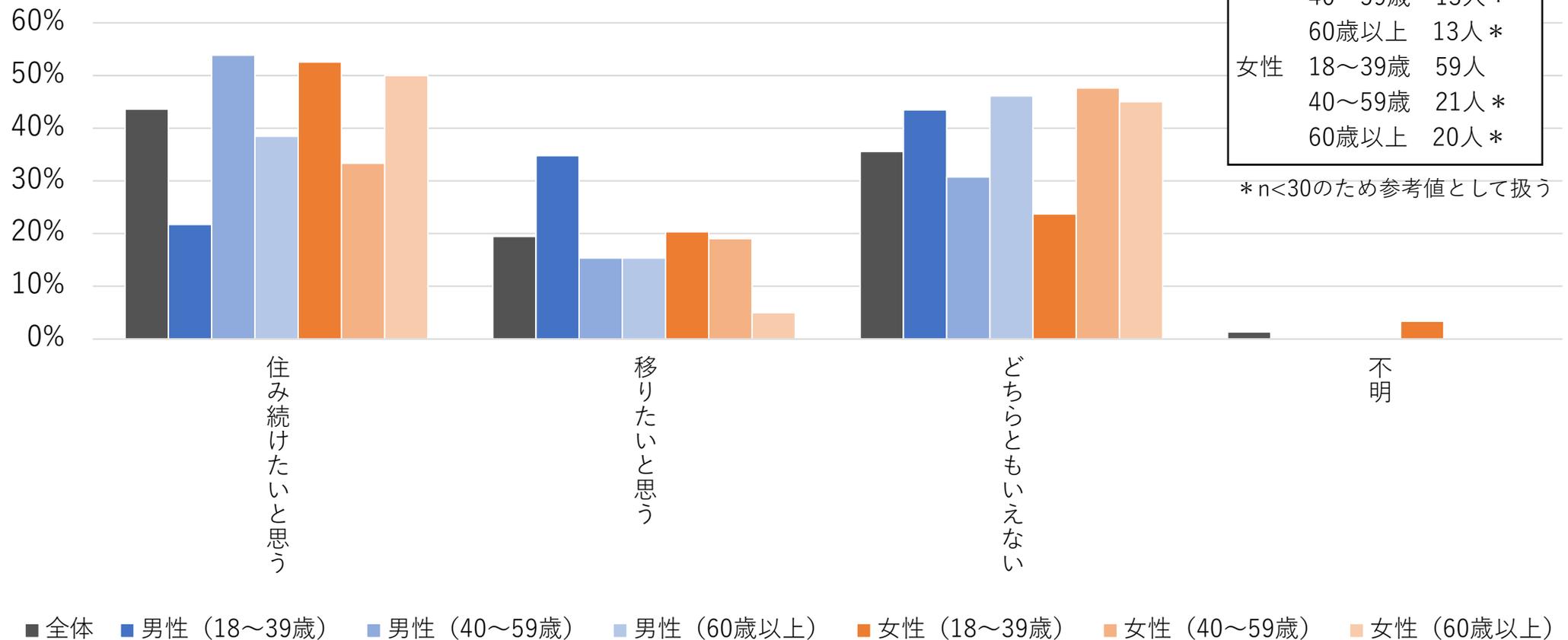
移りたい理由



問7 問6で回答した理由が解消されれば、箱根町に住み続けたいですか。【問6を答えた方】

- 町外に移りたい理由が解消された場合、43.6%の人が箱根町に住み続けたいと考えている。
- 18～39歳女性は52.5%が住み続けたいと回答しており、買い物環境や移動に係る課題解決が求められる。

移りたい理由が解消された場合の定住意向



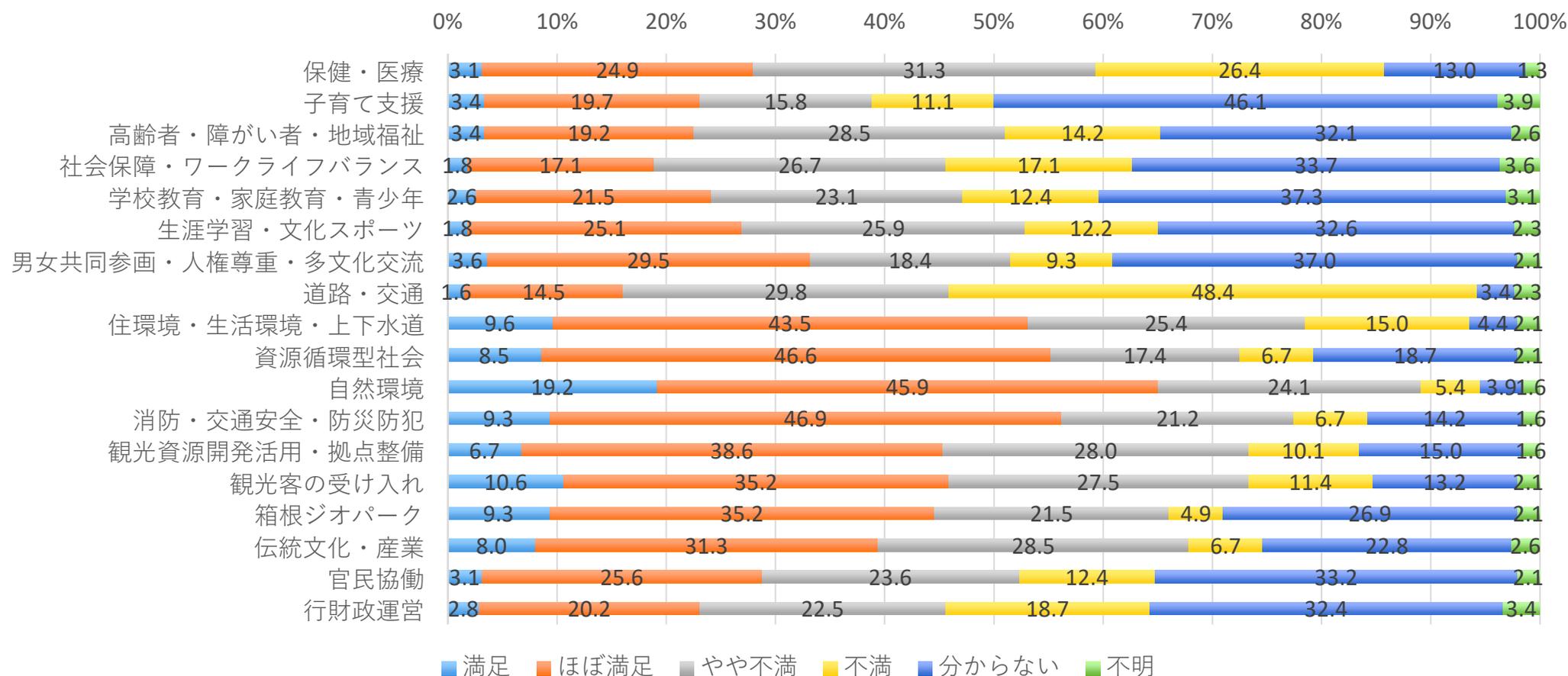
全体	149人
男性 18～39歳	23人*
40～59歳	13人*
60歳以上	13人*
女性 18～39歳	59人
40～59歳	21人*
60歳以上	20人*

* n<30のため参考値として扱う

問9 現行の第6次総合計画に掲げるまちづくりの各政策の評価「現状満足度」について

- 満足度が高い政策分野 (top2) は、「自然環境」(65.0%)、「消防・交通安全・防災防犯」(56.2%)、「資源循環型社会」(55.2%)となっている。
- 満足度が低い政策分野 (bottom2) は、「道路・交通」(78.2%)が特に多く、「保健・医療」(57.8%)、「社会保障・ワークライフバランス」(43.8%)が続く。

第6次総合計画に掲げるまちづくりの各政策の評価



- 自然環境に対する満足度は、男女共に若年層ほど高くなっている。
- 年齢が上がるにつれて、「消防・交通安全・防災防犯」や「住環境・生活環境・上下水道」といった暮らしに関する政策が上位に見られる一方、若年層は「箱根ジオパーク」「観光資源開発活用・拠点整備」「観光客の受け入れ」といった観光・地域資源に関する政策が上位に見られる。

各属性における満足度top2（「満足」「やや満足」）の上位3項目

	全体	男性			女性		
		18～39歳	40～59歳	60歳以上	18～39歳	40～59歳	60歳以上
回答者数	386	49	44	67	100	53	73
1位	自然環境	自然環境	自然環境	資源循環型社会	自然環境	自然環境	資源循環型社会
	65.0%	73.5%	70.5%	67.2%	75.0%	58.5%	60.3%
2位	消防・交通安全・防災防犯	消防・交通安全・防災防犯	消防・交通安全・防災防犯	消防・交通安全・防災防犯	観光資源開発活用・拠点整備	資源循環型社会	消防・交通安全・防災防犯
	56.2%	61.2%	61.4%	62.7%	55.0%	49.1%	54.8%
3位	資源循環型社会	箱根ジオパーク	住環境・生活環境・上下水道	住環境・生活環境・上下水道	観光客の受け入れ	住環境・生活環境・上下水道	自然環境
	55.2%	57.1%	54.5%	58.2%	52.0%	47.2%	54.8%

※top2が同率の場合、bottom2の回答が少ない項目を上位としている

- 満足度が高い政策分野は、属性により違いがみられたが、満足度が低い政策分野はすべての属性において「道路・交通」が突出して低くなっている。
- 女性については、すべての世代で「保健・医療」の満足度が次いで低くなっている。

各属性における満足度bottom2（「不満」「やや不満」）の上位3項目

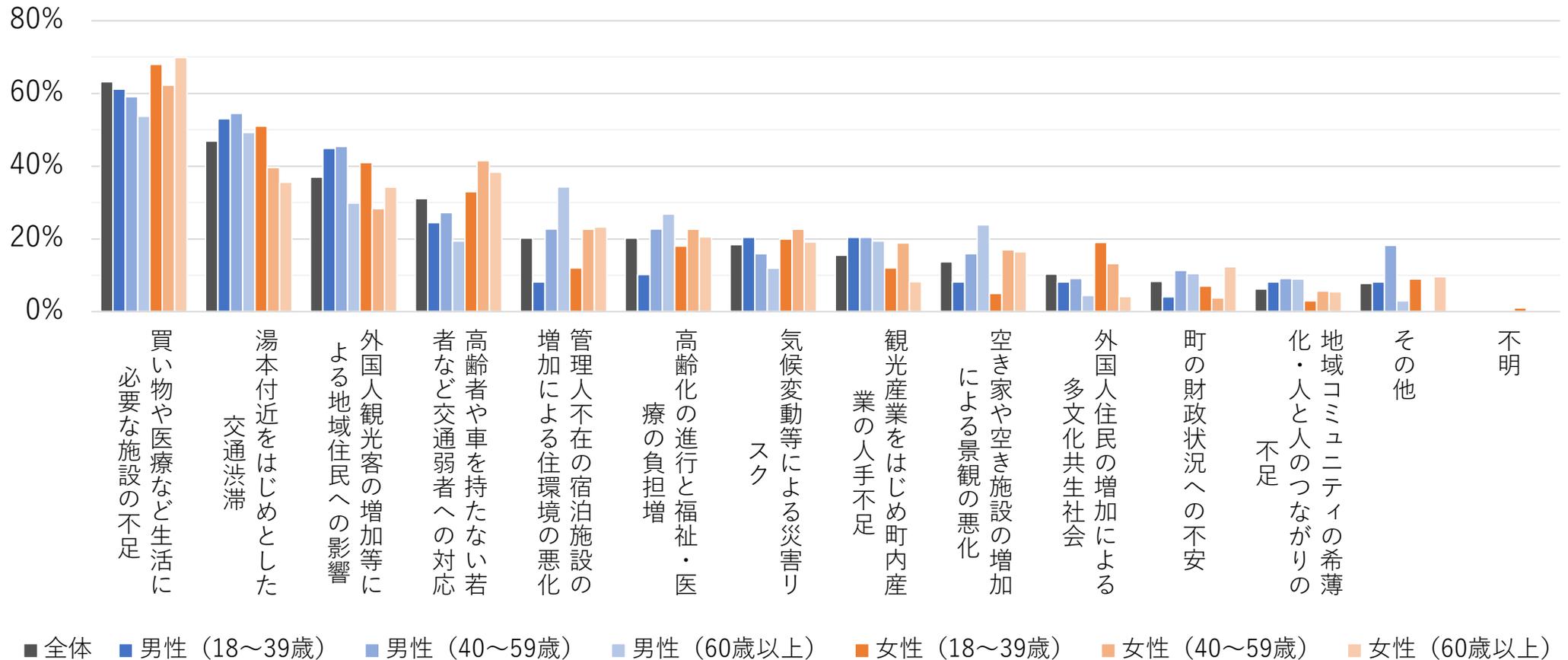
	全体	男性			女性		
		18～39歳	40～59歳	60歳以上	18～39歳	40～59歳	60歳以上
回答者数	386	49	44	67	100	53	73
1位	道路・交通	道路・交通	道路・交通	道路・交通	道路・交通	道路・交通	道路・交通
	78.2%	79.6%	77.3%	80.6%	74.0%	84.9%	76.7%
2位	保健・医療	観光客の受け入れ	官民協働	保健・医療	保健・医療	保健・医療	保健・医療
	57.8%	38.8%	40.9%	65.7%	56.0%	73.6%	65.8%
3位	社会保障・ワークライフバランス	保健・医療	保健・医療	高齢者・障がい者・地域福祉	社会保障・ワークライフバランス	高齢者・障がい者・地域福祉	高齢者・障がい者・地域福祉
	43.8%	36.7%	40.9%	58.2%	43.0%	52.8%	54.8%

※bottom2が同率の場合、top2の回答が少ない項目を上位としている

問10 あなたが感じている町（町政）の課題はなんですか。（あてはまる番号を3つまで）

- 全体の傾向として、「生活に必要な施設の不足」が63.2%と最も高く、次いで「交通渋滞」46.9%となっている。
- 若年層ほど「外国人観光客の増加による地域住民への影響」を重視する傾向がある。
- 女性は男性に比べて「交通弱者への対応」を重視する傾向にあり、特に40歳以上で顕著になっている。

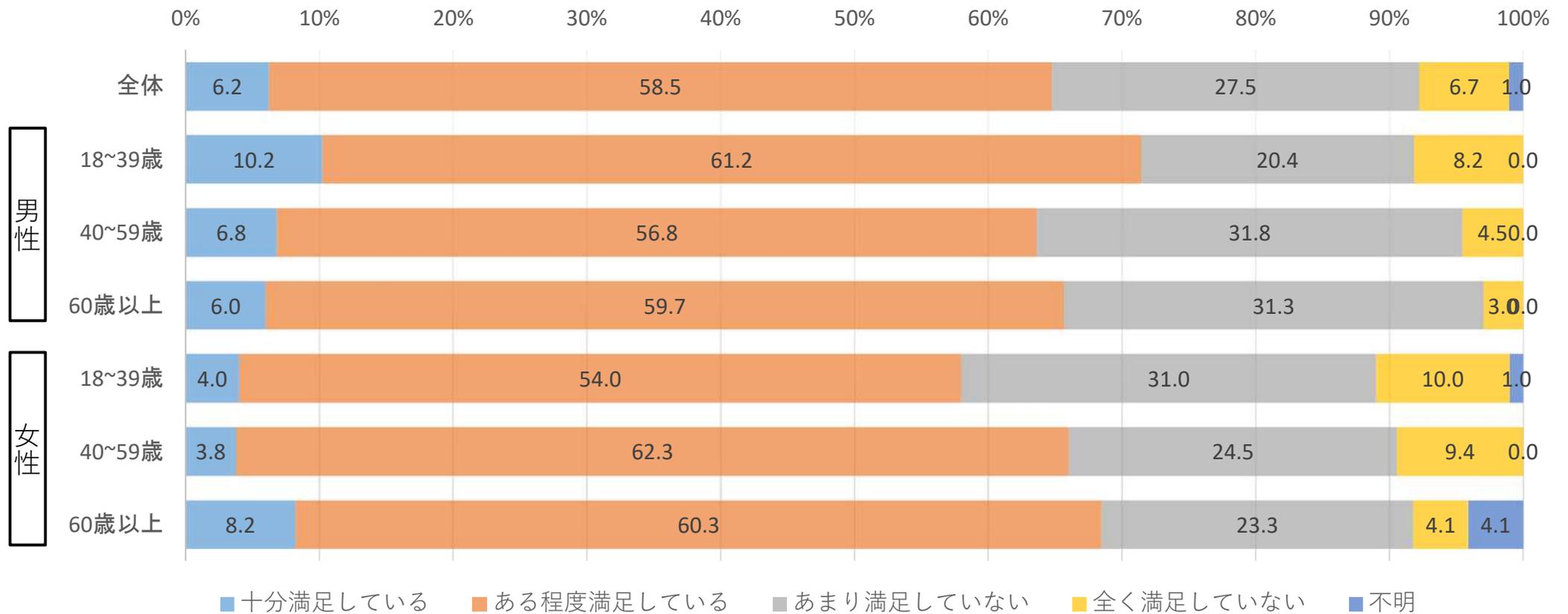
町（町政）に感じている課題



問12 あなたの暮らしの満足度について教えてください。

- 全体として、暮らしに「十分」または「ある程度」満足しているのは64.7%となった。
- 18～39歳男性が最も自分の暮らしに満足している一方で、18～39歳女性が最も満足度が低くなっている。

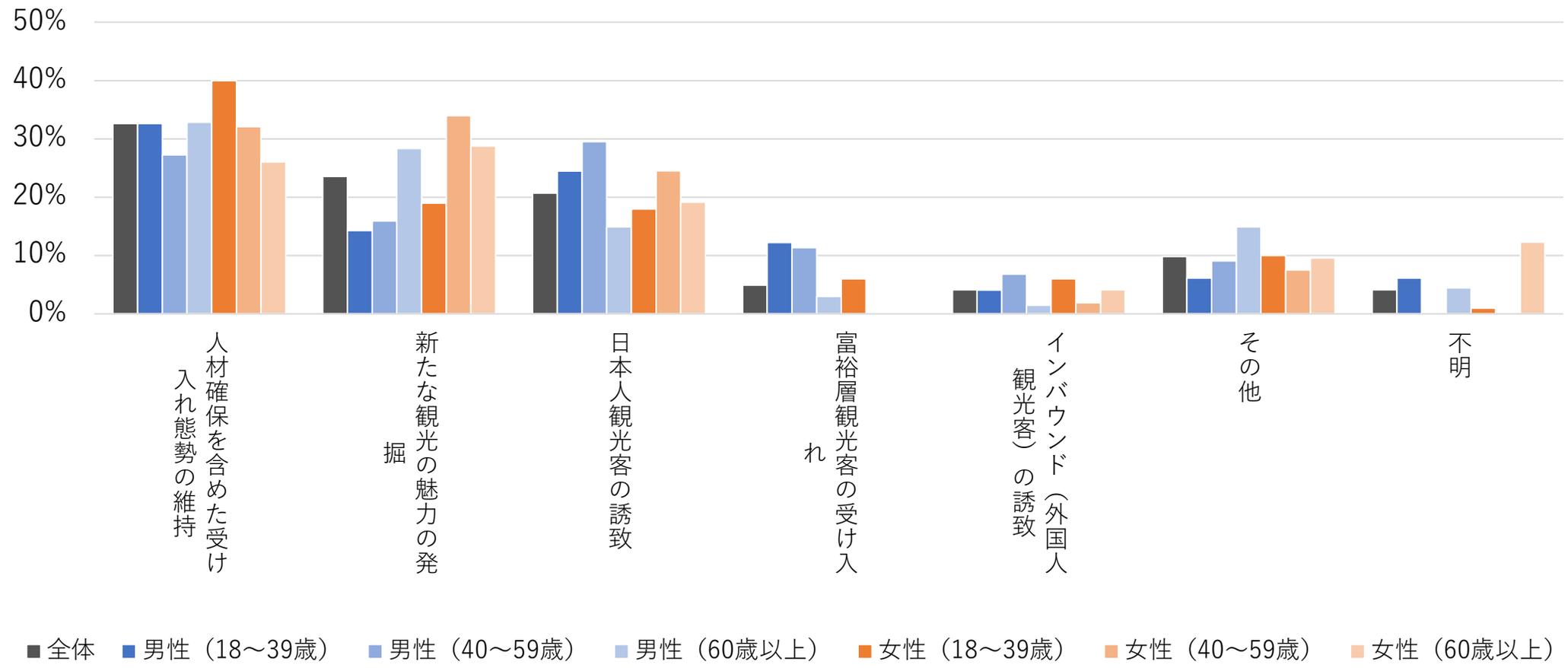
自分の暮らしの満足度



問13 箱根町の主要産業である観光について、今後何に力を入れていくべきだと思いますか。

- 全体では「受け入れ態勢の維持」が32.6%と最も高く、次いで「新たな観光の魅力の発掘」が23.6%となっている。
- 18～49歳男性においては、「日本人観光客の誘客」の回答が高い傾向にある。

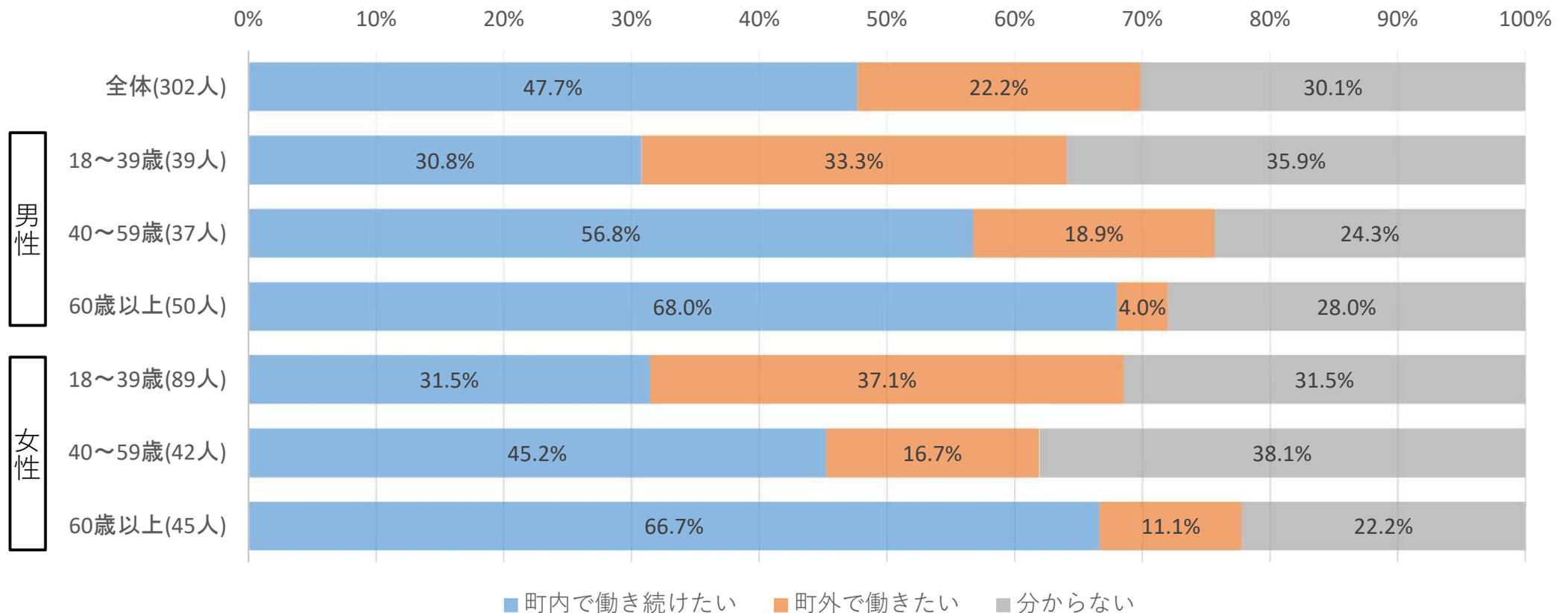
観光について力を入れていくべき取組



問15 箱根町で働き続けたいと思いますか。【町内で働いている方・これから働くことを考えている方】

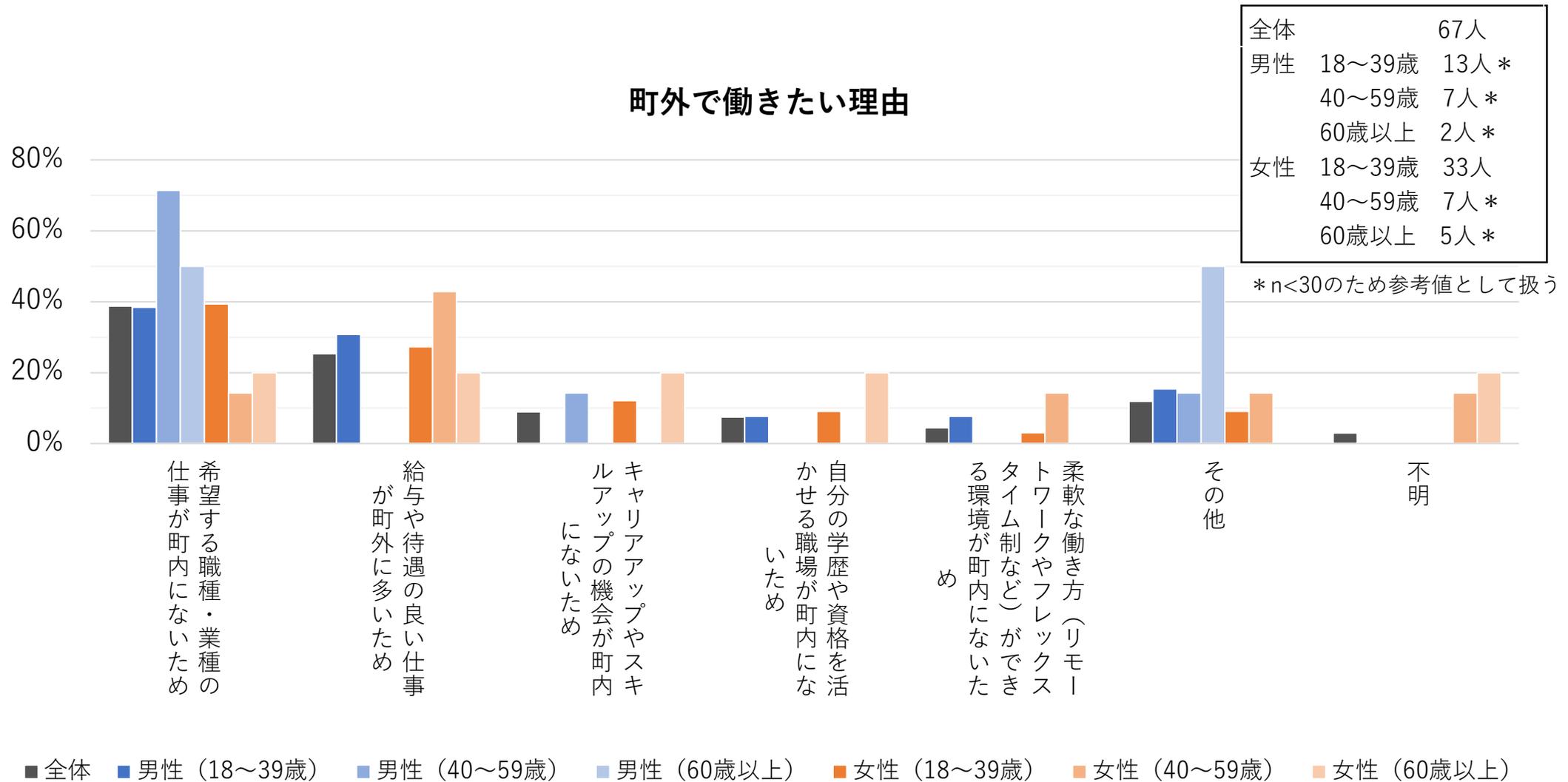
- 全体としては、47.7%が町内で働き続けたいと考えており、年齢が上がるにつれてその傾向が強い。
- 18～39歳は男女共に町内で働き続けたい人が3割程度に止まっており、町外で働きたいと考えている人の方が若干多い。

箱根町で働き続ける意向



問16 町外で働きたいと理由はなんですか。【問15で「町外で働きたい」と答えた方】

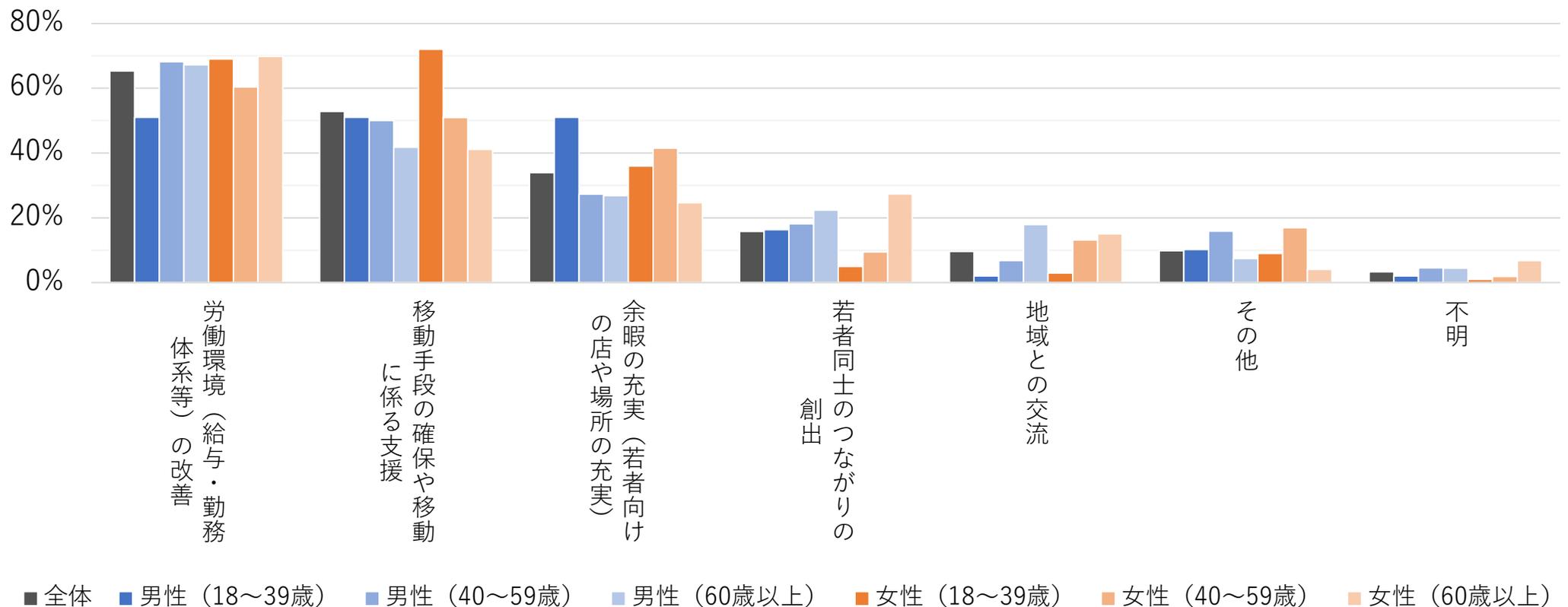
- 全体として、希望する職種・業種の仕事が町内にないことが、町外で働きたい理由として多くなっている。
- 若年層においては、「給与や待遇の良い仕事」も重要視している傾向にある。
- 町内で長く働くためには、町の職業の選択肢を増やすことが必要。



問17 人口減少が進むなかで、これまで以上に町の主要産業である観光業を支える若者の確保が難しくなっていくと思われますが、若者が住み、働き続けるために必要なことはなんでしょうか。（あてはまる番号を2つまで）

- 全体として、「労働環境の改善」の回答が多い傾向にある。18～39歳男性は、「移動に係る支援」「余暇の充実」が同率（51.0%）で1位に並ぶ。
- 若年層ほど「移動に係る支援」が必要だと考えており、特に18～39歳女性で高い値（71.0%）を示す。
- また、「余暇の充実」も若年層ほど回答が多い傾向にある。

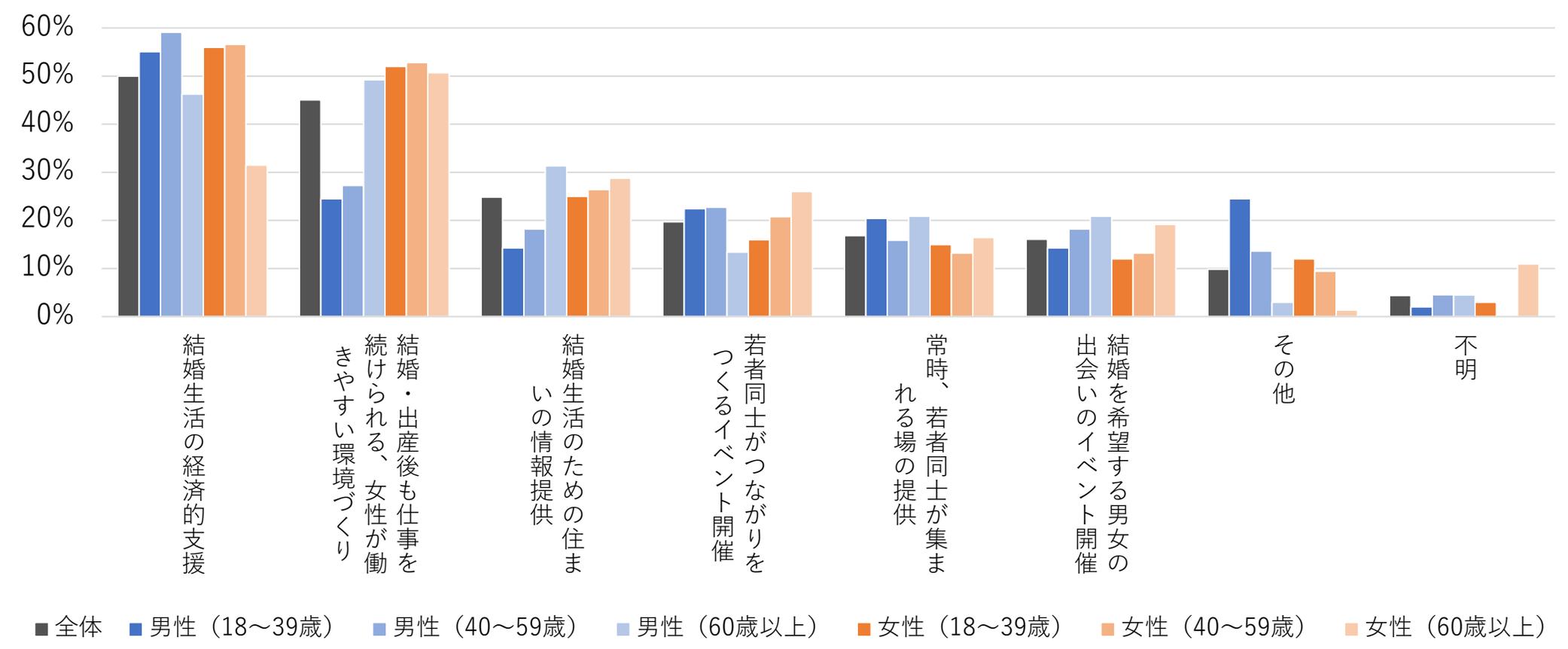
若者が住み、働き続けるために必要な取組



問18 箱根町は全国的に見ても未婚率が高い状況ですが、今後こういった施策が必要だと思いますか。（あてはまる番号を2つまで）

- ・ 若年層ほど「結婚生活の経済的支援」が必要とされる施策として回答が高くなっている。
- ・ 全世代の女性及び60歳以上男性においては、「女性が働きやすい環境づくり」も高くなっている。

未婚率が高い状況に対して必要な取組



問19 現在、町の人口の1割が外国人となっており、今後も外国人住民が増えていくと予想されますが、今後必要なことはなんでしょうか。（あてはまる番号を2つまで）

- 全体として「外国人向け日本語習得支援」が必要だと考えられており、特に18～39歳女性は42.0%と重要視している。
- 次いで「交流機会の充実」の回答割合が高く、年齢が上がるにつれてその傾向が強い。

増加する外国人に対して今後必要な取組

